

## 平成24年度 第1回 瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター  
瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果 －

### 今後の見通し(平成24年5月～6月)のポイント

(1) 来遊量：

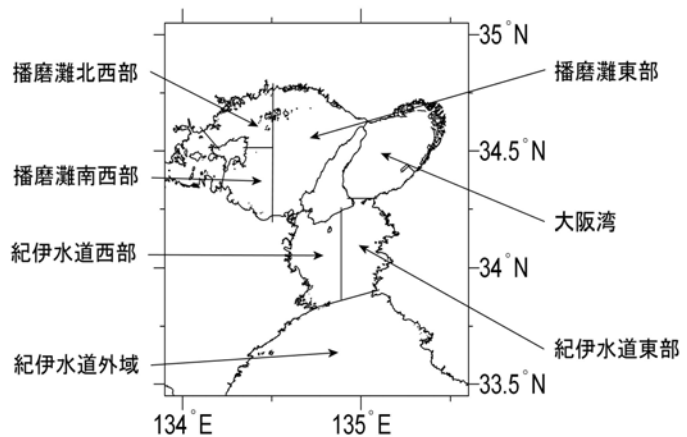
シラスは平年を下回る。

(2) 漁場：

紀伊水道、大阪湾、播磨灘東部及び

播磨灘南西部では不漁であった前年を上回るが、平年を下回る。

播磨灘北西部では平年並みであった前年を下回る。



### 問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 新村、内海

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

(予報の詳細についてのお問い合わせ先)

独立行政法人水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所 業務推進部

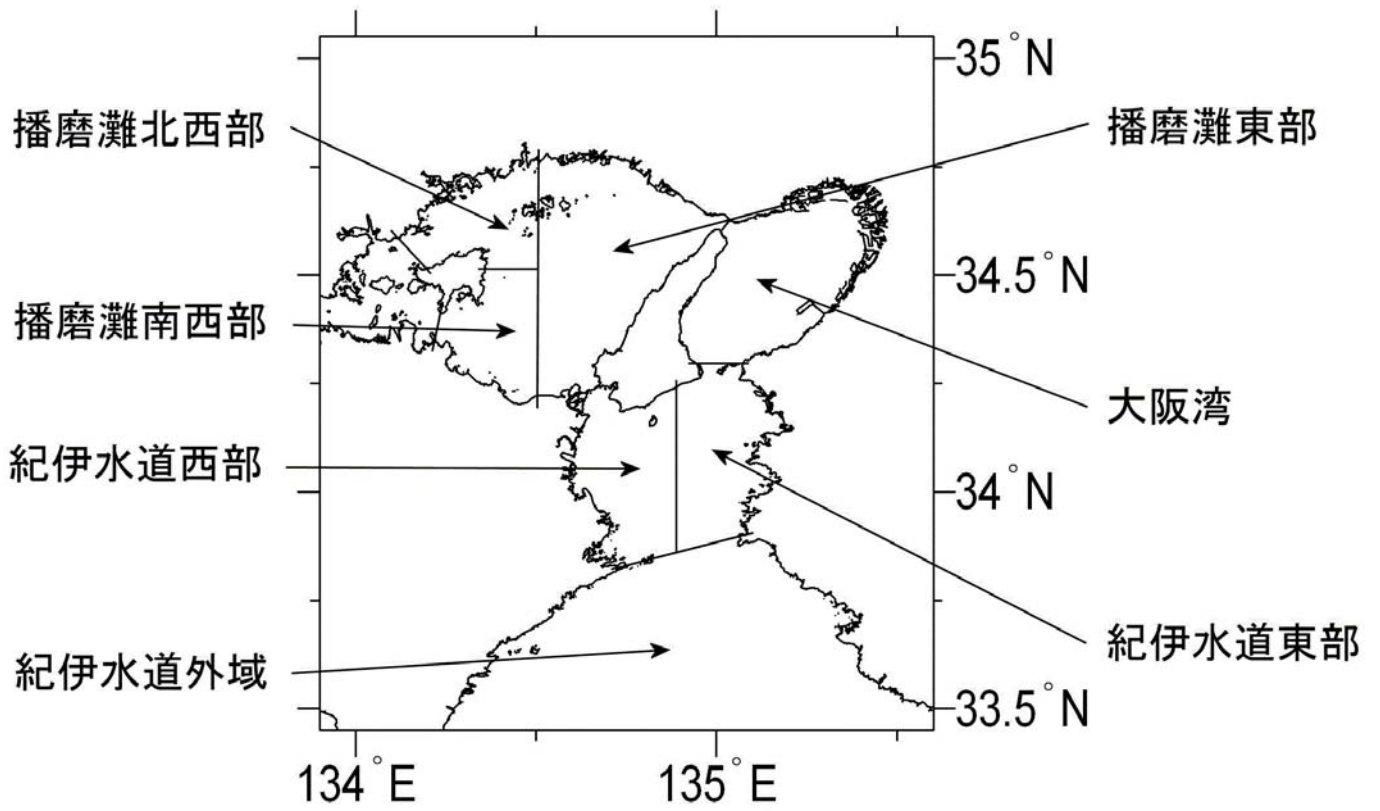
担当：吉田、川崎

電話：0829-55-3406、ファックス：0829-54-1216

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://feis.fra.affrc.go.jp/>



# 平成24年度第1回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

## 1. 今後の見通し（2012年5月～6月）

### シラス（本年春季発生群）

紀伊水道、大阪湾、播磨灘東部及び播磨灘南西部では不漁であった2011年を上回るが、平年を下回る。播磨灘北西部では平年並みであった2011年を下回る。

標本漁協、もしくは標本船のシラス漁獲量を各海域の指標とし（図1～3）、特に断りがない場合、1985～2010年の平均値を平年値とした。

## 2. 漁況の経過（2011年1月～2012年4月）及び今後の見通しについての説明

### (1) シラス漁況

紀伊水道東部（和歌山県側）では2011年の漁獲量は前年の59%、平年の54%であった。2011年5～6月の漁獲量は前年の39%、平年の34%であった。

紀伊水道西部（徳島県側）では2011年の漁獲量は前年の79%、平年の47%であった。2011年5～6月の漁獲量は前年の8%、平年の4%であった。

紀伊水道北部（兵庫県側）では2011年の漁獲量は前年の79%、平年の79%であった。2011年5～6月の漁獲量は前年の8%、平年の8%であった。

大阪湾（大阪府）では2011年の漁獲量は前年の35%、平年の74%であった。2011年5～6月の漁獲量は前年の1%、平年の2%であった。

大阪湾（兵庫県）では2011年の漁獲量は前年の53%、平年の76%であった。2011年5～6月の漁獲量は前年の0.1%、平年の0.2%であった。

播磨灘東部（兵庫県側）では2011年の漁獲量は前年の41%、平年の66%であった。2011年5～6月は漁獲がなく前年の0%、平年の0%であった。

播磨灘南西部（香川県側）では2011年の漁獲量は前年の33%、平年（1989～2010年の平均値）の47%であった。2011年5～6月の漁獲量は前年の28%、平年の13%であった。

播磨灘北西部（岡山県側）では2011年の漁獲量は前年の52%、平年（2000～2010年の平均値）の96%であった。2011年5～6月の漁獲量は前年の58%、平年の91%であった。

2012年の春漁は4月19日現在、紀伊水道以外の海域では始まっておらず、紀伊水道でもマイワシシラス主体となっている。

### (2) 日向灘～紀伊水道での産卵量

中央水産研究所、瀬戸内海区水産研究所がとりまとめたカタクチイワシの産卵状況に関する報告によると、2012年1～3月には日向灘～紀伊水道外域で産卵が認められ、合計産卵量は14兆粒（前年比647%、平年比12%）であった。

和歌山県水産試験場と徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究所が行った定線調査では、紀伊水道外域での卵密度は2月に0.3粒/m<sup>2</sup>（前年0粒/m<sup>2</sup>、平年比1%）、3月に47粒/m<sup>2</sup>（前年比3030%、平年比34%）であった。仔魚密度は2月に0.1個体/m<sup>2</sup>（前年0個体/m<sup>2</sup>、平年比1%）、3月に21個体/m<sup>2</sup>（前年0個体/m<sup>2</sup>、平年比60%）であった。紀伊水道での卵密度は2月に前年同様0粒/m<sup>2</sup>（平年0.02粒/m<sup>2</sup>）、3月に16粒/m<sup>2</sup>（前年比1604%、平年比1078%）であった。仔魚密度は2月に前年同様0個体/m<sup>2</sup>（平年0.1個体/m<sup>2</sup>）、3月に2個体/m<sup>2</sup>（前年0個体/m<sup>2</sup>、平年比30%）であった。

### (3) 今後の見通しの説明 (2012年5月～6月)

#### シラス (本年春季発生群)

4月18日現在、四国沖を黒潮小蛇行が通過中であり、黒潮流路は都井岬沖でかなり離岸、足摺岬～潮岬でやや離岸している。各岬における黒潮離岸距離の変動傾向と各機関で実施されている海況モデルの予報結果を併せて考慮すると、足摺岬～潮岬での黒潮流路は5月上旬まではやや離岸するが、その後に接岸すると予測される。

紀伊水道の春季シラス漁は日向灘～紀伊水道外域での産卵量と来遊環境に主に依存する。5月中旬以降に潮岬で黒潮が接岸すると予測されているため、来遊環境は5月中旬から好転すると考えられる。しかし日向灘～紀伊水道外域の1～3月の合計産卵量は2011年を上回ったが、平年を下回ったことから、紀伊水道では不漁であった2011年を上回るが、平年を下回ると予測される。

大阪湾及び播磨灘の春季シラス漁は日向灘～紀伊水道外域での産卵量、紀伊水道及び紀伊水道外域でのシラス現存量、来遊環境に主に依存する。5月中旬以降に潮岬で黒潮が接岸すると予測されているため、来遊環境は5月中旬から好転すると考えられる。しかし、日向灘～紀伊水道外域の1～3月の合計産卵量は2011年を上回ったが、平年を下回った。また、紀伊水道でシラス漁は始まったものの、カタクチシラスの現存量は少ないと思われることから、大阪湾、播磨灘東部及び播磨灘南西部では不漁であった2011年を上回るが、平年を下回ると予測される。播磨灘北西部では上記の理由から平年並みであった2011年、平年を下回ると予測される。

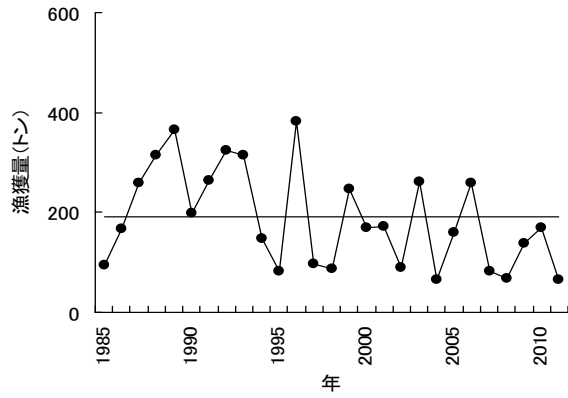
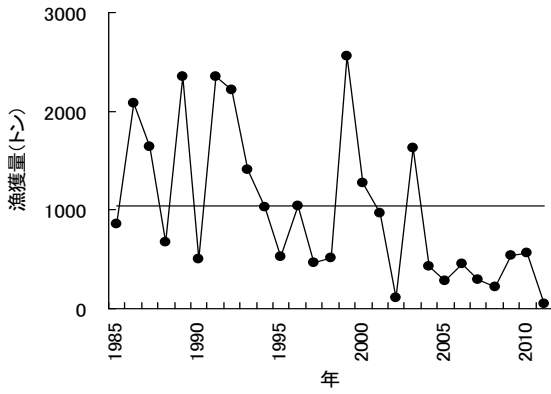


図1 紀伊水道西部（徳島県側：左図）及び紀伊水道東部（和歌山県側：右図）の標本漁協における5～6月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

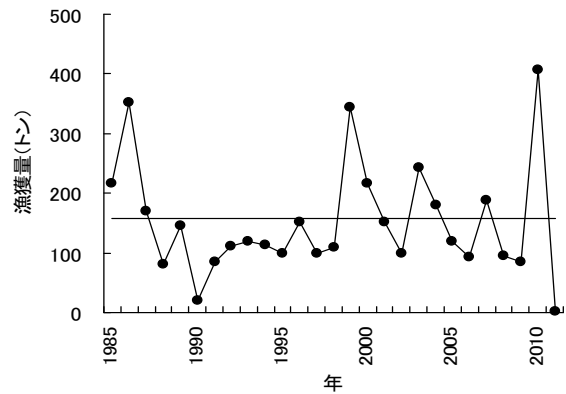
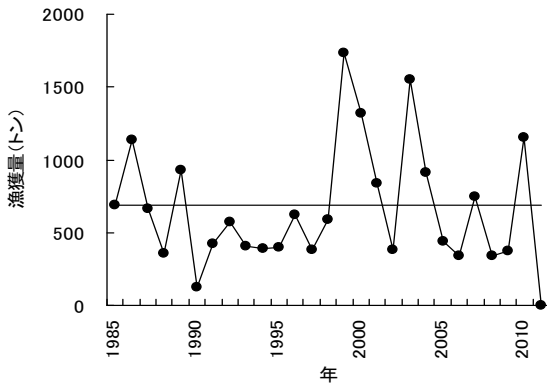


図2 大阪湾（兵庫県：左図、大阪府：右図）の標本漁協における5～6月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

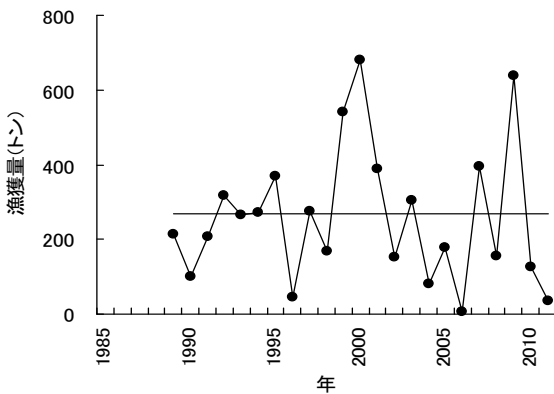
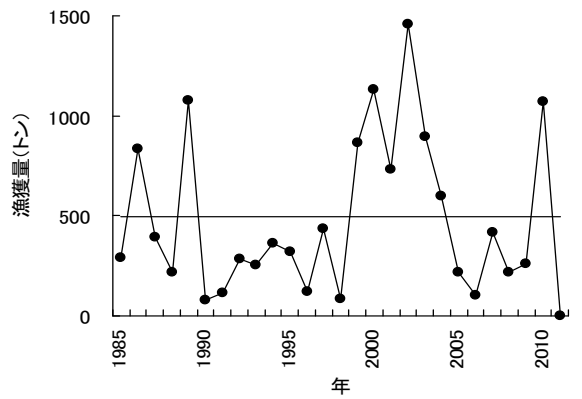
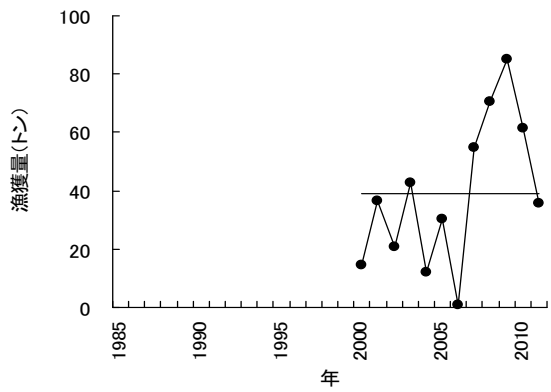


図3 播磨灘北西部（岡山県側：左上図）の標本船における5～6月のシラス漁獲量、播磨灘東部（兵庫県側：右上図）、及び播磨灘南西部（香川県側：左下図）の標本漁協における5～6月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

## 参 画 機 関

<p>和歌山県水産試験場</p> <p>地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター</p> <p>兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター</p> <p>岡山県農林水産総合センター水産研究所</p> <p>香川県水産試験場</p>	<p>徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究所</p> <p>水産庁 増殖推進部 漁場資源課</p> <p>独立行政法人 水産総合研究センター 中央水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関)</p> <p>独立行政法人 水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所</p>
--	--